

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

URC資料室だより NO. 113

平成 30 年 4 月号

福岡アジア都市研究所は、
福岡市を中心に産学官が協力して
設立した研究機関です

タイトルバック：琴性根氏（釜山発展研究院）撮影

◆はじめに

新副理事長のご挨拶 中村郁子

4月1日付で、西区長から福岡アジア都市研究所(URC)の副理事長に就任することになりました。福岡アジア都市研究所は、今年度、設立30周年という節目の年を迎えます。ちょうど30年前、私が福岡市企画調整部の係員だった時に、同じ部内に設立準備担当の組織があり、忙しそうに飛び回っていたことを覚えています。今度、当研究所に異動することになり、縁を感じているところです。

福岡市は、この30年で、人口も157万人と急増し、国内外でも成長著しい都市、住みやすい都市としての評価を高めています。これから、人口減少、超高齢化、グローバル化、ICT社会の到来などの大きな環境の変化を避けて通ることはできません。このような中で、福岡市が都市の成長と生活の質の向上のために、どのような戦略で政策を進めていくか、福岡市の設立したシンクタンクとしてサポートしていきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

◆URC資料室ニュース

2017 アジア都市景観賞受賞地域のポスター展開催中

2017年アジア都市景観賞授賞式が、2017年9月28日～29日に中国の銀川市で行われ、2017年度は、8か国から53件のエントリーがあり、その中からアジア都市景観賞13件、アジア都市景観賞審査員賞2件の計15件

新常務理事・事務局長のご挨拶 横内正明

福岡市から派遣により4月1日付けで、市経済観光文化局国際経済・コンテンツ部からURCにまいりました。

市役所では、ここ数年は航空、エネルギー、スマート・シティ、クリエイティブ産業などに関わる仕事を担当していました。このような産業分野は特に、国際的な連携が求められるとともに、技術革新やビジネスモデルの変化も著しく、競争や環境変化に晒される分野です。また一方で福岡市の都市としての成長のエンジンともなる強みのある分野であり、かつ今後の都市の発展のうえでも重要な要素となるものと思います。

都市政策と国際交流に関する調査研究機関であるURCにおいては、福岡市の都市の発展と生活の質の向上に向けて一助となるようしっかり努めてまいりたいと思っております。その中で今までの経験などが少しでも活かされれば幸いです。

また時代の変化に合わせて、事業のリニューアル・見直しや新しいチャレンジにも取り組んでいきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

が表彰されました。

この度、アジア都



市景観賞の事業を広く知っていただくため、また、資料室のPRのため、受賞地域(下記15件)のポスター展を開催しています。この機会にご覧くださいましたら幸いです。

○本年度受賞地域

*日本 4件

【アジア都市景観賞】

千葉県柏市、群馬県草津町、奈良県十津川村、大分県豊後高田市

*海外 11件

◆URCニュース

①平成29年度市民研究員「研究成果発表会」「福岡市への報告会」「修了式」を行いました！

昨年7月から約9か月間にわたり活動を続けてきた市民研究員5名が平成30年3月11日に研究成果発表会をアクロス福岡で行い、約50人が耳を傾けました。その記事が西日本新聞の3月12日の朝刊に掲載されました。



市民研究員は「住んで、来て、楽しい福岡の街づくり」～ポテンシャルを生かした新しい福岡の魅力づくり～を共通テーマに、月に2回の定例会に参加し、福岡市の職員によるレクチャーを受け、各自の研究内容について議論しながら調査・研究を進めてきました。

各自の研究テーマは以下の通りです。

『福岡の街がワクワクする未来型スタジアムに関する研究』… 谷脇 良也

『ムスリムの人も気軽に訪れ、ともに暮らせる街づくりにむけた研究』… 弥栄 睦子

『「コンパクトな立地」にポイントを置いた「利便性」の高い街づくり』… 三毛 陽一郎

『「働き方と働く場」ライフステージを想定した就業支援の研究』… 矢野 裕樹

『住んで、来て、楽しい福岡「市街化調整区域」のまちづくり』… 山崎 敬太

②国際研修受入報告

いよいよ、平成29年度の最後の月になりました。3月は、韓国から2団体(韓国プロジェクト平生教育院、軍威郡)、タイから1団体(タイ王国キング・プラジャーティポック研究所)、合計2ヶ国、3団体、延べ人数83名が福岡市の様々な取り組みを学ぶため来福しました。

視察は、FUKUOKA growth next(大名小学校)、福岡

【アジア都市景観賞】

韓国 釜山市、全州市、ソウル市、

中国 佛山市、靈武市、普洱市、

インド プネ市、

ベトナム タムキー市、

インドネシア バンジャルマシン市

【アジア都市景観賞 審査員賞】

中国海南省澄邁県

インド スラット市

写真:URC撮影(山崎三枝 司書)



市民研究員は3月27日に福岡市庁舎を訪問し、研究成果を基に福岡市へ提言を行いました。福岡市の永浦理事からは、研究成果に対するコメント、これまでの活動に対する労いや今後の活躍を期待するお言葉を頂きました。

その後、弊所会議室にて平成29年度市民研究員の修了式を行い、修了証書が市民研究員へ手渡されました。市民研究員の皆様は、苦勞して研究を続けて研究論文を完成させた達成感に満ち溢れていました。今後のご活躍を祈念します。

市民研究員の研究成果は「研究報告書」としてまとめられ、福岡市の各部署に配布予定です。また、平成30年5月頃、研究報告書は弊所ホームページに掲載予定です。



写真:URC撮影(嶋岡和久 主任研究員)

市市民福祉プラザ、福岡市立香椎保育所などで実施されました。特に、URCは、1月の視察研修以来2回目の来福となるタイ王国キング・プラジャーティポック研究所から視察研修の協力に対する感謝の気持ちとして盾を頂きました。現在、その盾は福岡アジア都市研究所(URC)の資料室に展示しておりますので、ぜひ、ご覧ください。



九州への外国人入国者数が増加している中(参考資料:国土交通省九州運輸局:平成29年度、九州の外国人入国者数)、福岡市国際視察研修プログラムへの

参加者も、益々増え続けています。これからも、各国のお役に立てるよう福岡市の先進的な取り組みを紹介していきたいと思っておりますので、多くの申込をお待ちしております。



写真:URC 撮影 (李英雄 国際視察研修担当)

③研究紀要『都市政策研究』の投稿論文を募集しています。

研究紀要『都市政策研究 第20号』に掲載する投稿論文を募集しています。論文の内容は、都市政策に関連する研究成果をまとめたものとし、特に、福岡市の都市政策に対する何らかの提言的な内容を含むことが望ましく、新規性または有用性のあるもので、原則として未発表のものに限ります。

投稿期限は、査読を要する論文は2018年8月31日、査読を要しない論文は2018年9月30日です。投稿資格は、原則として賛助会員、福岡市職員、及び当研究所職員ですが、大学の研究者等で編集委員会が認める場合は

この限りではありません。

投稿要領は当研究所ホームページに掲載しています。なお、投稿を検討・希望される場合は、6月末日までにご連絡をお願いします。

また、皆様のお知り合いやお近くに論文を発表された方や、興味がありそうな方がいらっしゃいましたら、ぜひご案内ください。投稿をお待ちしております。

【専用メールアドレス: toshiseisaku@urc.or.jp】

(山本美香 主任研究員)

◆今月のおすすめ f U+No. 18 特集:地域の特性や課題に応じて取組む まちプロ

当研究所の刊行物(f U+)は、今年度で19号目となります。幅広い方から執筆していただき、そして福岡市内外へ出向きインタビューすることで、多くの方に興味を持っていただけるような面白い記事ができました。その内容を少しだけ紹介しますと、クリエイターインタビューでは、社会現象を巻き起こした『新世紀エヴァンゲリオン劇場版』の庵野秀明氏をはじめ、川上量生氏、麻生健氏の3者インタビュー。また、『クッキングパパ』のうえやまもち氏の単独インタビュー。特集では、新たな魅力スポットや地域の特性や課題に応じて

取組む団体、住人、その地域で働く人たちのご協力を得てインタビューすることができました。さらに、URCの理事長や研究員の方々が執筆しており、その内容はここでは紹介できないほど満載です。ぜひ手に取ってご一読ください。

(足立麻理子 総務課)



◆特別寄稿 *一人一花の楽しみ* 第2回 チャンチン&藤

福岡市が提唱する一人一花運動、157万人の市民が一花を育てると福岡は157万本の花溢れるフラワーシティになる。市長曰く、「今年は花でムーブメントを起こします!」まずは花に興味のない人にも一人一花運動に関心を持ってもらう。キックオフは4月警固公園での一花巨大オブジェづくり。どんなオブジェなのか?早速見に行かなくちゃ!

さて、ワクワクの桜から4月に入り、まずときめくのはチャンチンの桃色新芽。香椿と書いてチャンチンと呼びます。センダン科チャンチン属中国原産の落葉広葉、太陽が大好きで「雲破り」の別名を持つ。季節の葉色の移り変わりや初夏の白花、秋の実の割れ様、落葉と忙しい1年を見せてくれる。おっと、ひこばえも確かに桃色新芽。踏まずに見てあげてね。4月の天神は桜、香椿、プラタナスと桃色繋がりを楽しませてくれる一花必見の花通りになります。

4月中旬からはお待ちかねの藤の季節。万葉の昔から万人が愛でる歴史花。枕草子では「色あひふかく、花房長く咲きたる藤の花、松にかかりたる」と女性が男性にこなだれかかる様子が藤と松に例えて詠まれています。花言葉も決

して離れない、恋に酔うなど妖しくも大人ちっくです。甘い香り、花姿と藤色の妖艶さ故でしょうか?樹齢1000年超えの名所もあり全国各地で皆、藤まつりに酔いしれます。日本原産なの嬉しい。マメ科フジ属。つる性落葉花木。花種も多く、花色も白・紫・紅色と多彩。藤は山藤(ヤマフジ)と野田藤(ノダフジ)に大別されますが、山藤の花穂は短く(10~20cm)花は大きく、つるは反時計回り。野田藤は一重、八重、花穂長く(30~90cm)、つるは時計回りです。園芸種は野田藤が多く見られます。育て易く成長も早いので剪定を怠らず主幹を柱にして育てれば、狭い所でも毎年花を楽しめます。棚仕立てがポピュラーですが鉢植えでも地植えでも初心者でもOK。用土は水はけが良く水持ちが良いもの。赤玉土6 腐葉土&完熟堆肥4で11月12月に根を傷めないように植えます。追肥は窒素分を控えてカリウム・リンを多めに施すと花付が良くなります。成長期を考慮して与えます。最近では花盆栽として一才藤



を楽しむのもお薦め。お洒落な花インテリアとして・・・モダンジャパニーズが冴えますね。

また、藤は古くから着物の柄としても多く愛用されており、長寿で成長力があり、目出度い花の代表格でもあります。藤原家の名前のおすそわけが地名や家名に多くみられるのは時代隆盛の名残でしょうか。時代を超え五大家紋の藤デザインは海外でも人気です。黒田藩の藤巴も一躍有名になりました。藤にまつわる話はエンドレス。語り尽くせぬほど優雅で歴史深く万人に愛された日本発の藤♪万歳！

写真：福岡市提供 執筆：福博：花まち研究会会員 きむらみえこ(環境演出家®)



今年の「福岡城藤まつり」は4/20(金)～4/29(日) 10:00～16:30開催されます。更に成田佳子邸の古民家「木香庵」藤のライトアップも新六本松のお薦めスポットです。

◆URCメディア紹介情報—最近1か月の情報を中心に—

◎新聞

(2018/3/23 日本経済新聞 朝刊 39p)

エコローカル 九州・沖縄 アジアの玄関 福岡 今こそ 起業・観光 活況生かすには 国際線直行便増やす工夫
URCの調査報告書「第3極」の都市 plus3」が引用される。
FDC 石丸修平事務局長がコメント

(2018/3/23 秋田魁新聞 朝刊 27p)

<開学から5年・秋田美大の今>(下)[大学院]芸術の力で地域貢献/市民研究員OB藤浩志さんが4/1「アートセンターあきた」の理事長を務める。

(2018/3/22 熊本日日新聞 夕刊 3p)

「夜の観光」で訪日客取り込み「ツマラナイ」返上へ、自治体が振興策 ショー、ライトアップ・・・福岡市も検討本格化
FDC 石丸修平事務局長がコメント(@印=以下同じ)

(2018/3/22 西日本新聞 夕刊 9p)

「夜の観光」消費起爆剤に 忍者ダンスショー 屋台 ライトアップ 訪日客向け 自治体が振興策 @

(2018/3/21 秋田魁新聞 朝刊 29p)

<開学から5年・秋田美大の今>(上)[特色]単独分野に縛られず 市民研究員OB藤浩志さんが副学長としてコメント

(2018/3/21 東奥新聞 朝刊 8p)

日本の夜を楽しんで 訪日客狙い各地で振興策 東京より地方に強みも@

(2018/3/21 読売新聞 朝刊 36p)

耐震強化条例 浸透せず 福岡西方沖地震13年 新築ビル・マンション 適合は3割/URC OB 大塚政徳さんが福岡市建築物安全推進課長としてコメント(☆印=以下同じ)

(2018/3/20 朝日新聞 夕刊 2p)

「食える作家」へ 大学が後押し 学生が値付け、卒業展で作品販売 京都造形芸大、売り上げは700万円 アートフェアで市場体感 国内外7大学が参加/市民研究員OB藤浩志さんがコメント

(2018/3/20 中国新聞セレクト 1p)

夜の観光 自治体競う 訪日消費 ドドンと増えろ 食・宿接近 地方にも強み @

(2018/3/20 西日本新聞 朝刊 34p)

九州の廃校 広く活用 宮崎と福岡 事業者連携 新規参入サポートへ/FDC 石丸修平事務局長が「九州廃校サミット」の発起人の一人を務める。

(2018/3/19 朝日新聞 朝刊 27p)

リポート FUKUOKA 地震の備え 命だけは守る 福岡沖地震から13年 福岡市、防災ベッド・耐震シェルターに助成 住宅耐震化より負担軽く ☆

(2018/3/16 シルバー新報)

地域ぐるみで実習生支援を 介護の輸出一転、「輸入」を先行？ 国際・アジア健康構想協議会

小川全夫特別研究員が「外国人介護人材還流事業構想」を発表

(2018/3/13 東京読売新聞 朝刊 30p)

「芸術家と市民 結ぶ人を」新潟 芸術祭考えるシンポ=新潟 市民研究員OB藤浩志さんがパネリストとして参加

(2018/3/13 西日本新聞 朝刊 32p)

深フカボリ！新事業 垣根越えタッグ 大企業、ベンチャー、学生、シニア 広がる「オープンイノベーション」利用者、地域の目線で
FDC 石丸修平事務局長がコメント

(2018/3/12 西日本新聞 朝刊 25p)

市民研究員が街づくり案 天神で発表会 福岡市に提案へ 市民研究員研究成果発表会の開催報告

(2018/3/5 日経MJ 9p)

イキイキ地域 福岡市 国内屈指のVB支援策 FDCの活動が紹介される。石丸修平事務局長がコメント

(2018/3/3 西日本新聞 朝刊 23p)

博多区 16日に博多区で都市デザインセミナー 本年度第3回都市セミナーの開催予告

◎雑誌

(2018/3/1 あすの九州・山口 2018.3 2～5p)

寄稿：人材還流による国際介護は新しい段階に入った 小川全夫特別研究員が執筆

(2018/3/1 月刊廃棄物 表紙：トイザウルス)

市民研究員OB藤浩志さんの作品が採用される。

◎テレビ

(2018/4/1～15 J-COM ふくおか ふくおかマイコム)

春のまち歩き・箱崎編 /市民研究員OB吉良幸生さん、吉原勝己さんが福岡路地市民研究会会長、副会長として路地のまち歩きに同行/平成27年度第2回ミニセミナーの講師大井実さんも出演

◎ラジオ

(2018/3 毎週金曜日 18:00～18:25 ローカルラジオ放送コミュニティラジオ天神(コミてん)) スポガでReady Bowl!! 市民研究員OB吉田勝さんがパーソナリティを務める。